

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	賀寿園グループホーム愛
(ユニット名)	ユニット1
所在地 (県・市町村名)	志布志市志布志町安楽2814
記入者名 (管理者)	大峯 洋子
記入日	平成 21 年 8 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念として「個人の尊厳を大事にする」ことを職員間で共有している。理念に基づき「尊厳」「その人の思い」に寄り添い、実際のケアの場面において、理念にそってサービスが提供できるようにしている。		契約書等関係書類については、文面の記述が遅れていることから今後実施していきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理事長の理念として「和顔愛語」がある。この理念をベースとして、個人の尊厳を大事にすることをスタッフ間で共有し作り上げ日々生活の中で理念に基づいたケアに繋がる様努力している。日々のサービス提供場面で理念に則さない言葉がけ、行動があった時には、お互いに気付き、話し合える環境を作り実践している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	広報誌のタイトルを「和顔愛語」にするなどして、啓発をしている。		施設全体の行事参加また協力体制を構築また今後は、地域住民に対しても、福祉大会への参加などを利用して施設の理念の浸透を図りたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣接する施設と職員、入居者様、それぞれに交流がある。毎日、食材の買物には入居者様と一緒にいくようにしており、挨拶を交わしたり、話をする機会を設けている。また、防災訓練などを通じ、近隣の方がいざというときに駆けつけてくれる体制を整えている。日常的な外出支援を入居者様個々において実践している。墓参りや散髪などの外出等を通じて地域の方々との関わりが増えたと実感している。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との付き合いは法人主体になっている。社会福祉法人に属す事業所としても、地域密着型サービスの趣旨からも、市への行事等への参加が不十分である。		市の福祉大会をはじめとした行事などに今後は参加をしていきたい。また施設に対してもボランティア団体などの受け入れをしながら地域との交流を深めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献として、施設にて実習生の受け入れを積極的に行っている。また、職員が校区公民館福祉部の役員をするなど事業所で培ってきた成果を地域に還元している。今後とも、社会福祉法人の職員として、地域において認知症ケアの啓発を図るべき機会を持ち続けていきたい。また職員が安楽校区公民館福祉部行事等を通じて、認知症の方への理解・接し方を説明するなどして地域に貢献してきた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かした具体的な改善は、可能な範囲で実施している。しかし、まだまだ改善する点が多い。		管理者、及び全職員は、自己評価・外部評価の実施の意義を理解し、評価を活かして取り組んでいきたい。具体的には、外部評価の結果を踏まえ、改善計画を作成し、職員全体で諸問題の改善に向かいたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会自体は立ち上げた。これまで継続開催はしていないが、今年度は9月から開催を計画している。		運営推進員会議の定期的開催を目指し、グループホームに関する課題や方向性、問題点などをあらゆる方面から意見を聞き会議を活かしサービスの向上を図っていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市、地域包括支援センターなどとの連携は不十分。		運営推進会議において、市町村、市包括センターとの関係を強化、情報交換していきたい。特にケアマネジメントにおいて主任ケアマネとの関係を強化し、施設サービスの向上に取り組みたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	これまで、サービスが必要な方はいなかったということもあるが、入居者、家族に対し、そのようなサービスを説明してこなかった。各ユニットの介護計画作成者は、社会福祉士会が開催する権利擁護の研修会に参加した。今後、必要があれば関係機関と連携をとりながら支援していきたい。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については、全職員に対してレジュメを配布しているが日常的な虐待防止における取り組みの徹底、潜在しがちな虐待の徹底防止に努めている。虐待の危険を早期にみつけ関係機関と協働できる速やかに対応をしていく体制を構築し職員間で再度、勉強していきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>文書と口頭でゆっくりと十分に説明し家族に了解してもらっている。その際は、事業所として提供可能、または困難なことを説明している。入居予定とする方の、入居後の状態変化により契約解除となる場合においても家族等とその後の対応方針を話し合うなどしている。利用料金変更、改定時など変更事項について明確に説明し良く理解して頂ける様努めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者様からの言葉や、態度、表情などから、その思いに「気づく」努力をするよう日々職員には伝えてある。その際は、経過記録へ個々に記録をし、ケース会議等で使用し、施設運営に反映している。入居者様からの意見など、運営推進会議等においても、運営委員の皆様と一緒に検討していければと思う。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>施設へご面会にこられた際も、暮らしぶりなどご説明している。細かに伝え、意見・要望に積極的に耳を傾けております。広報誌等も利用し、担当職員からのコメントを掲載するなどしている。また、必要に応じてキーパーソンの方に電話、文書での連絡を行なっている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を設け、家族同士の集まり(食事会など)で意見を交換できる機会をとっている。その際は、家族同士で話をする機会にもなっており、認知症に関する共通認識を生む機会となっている。また、毎月1回、ご意見用紙を送付している。施設玄関にも同様の意見箱を設置するなどして運営に反映している。具体的に家族会を有意義なものにする為に担当職員が情報収集をする事により介護計画や日常の介護に活かしていける様、家族と話し合い反映させている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に2回の職員会議を設け、うち1回はユニット合同会議、1回はユニット別会議と運営に関する提案をする機会を設けている。合同、ユニット別会議ともに、問題があればそれを全職員で共有し、問題解決アプローチをいかにしてとるか話し合いをしている。ユニット別会議においては問題解決が必要な事例に対して意見を出し合い共有することにより解決の糸口を探る努力をしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者様の生活の流れに対応できるようなローテーションを採用している。行事等で必要がある場合は、勤務調整をしたりと柔軟に対応している。夜間、入居者様の状態の変化によって、柔軟な体制がとれている。また、1日の勤務体制に支障をきたさぬよう柔軟な体制がとれている。一日の流れの中で突発的な状況にも対処出来る様臨機応変に対処している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの職員が関わりをもてるよう極力、異動・離職のダメージを防ぐよう配慮している。新職員を配置する場合は、入居者様に対してしっかりと説明をし、信頼関係の構築をするためのフォローを他職員が協力するようにしている。馴染みの職員は、入居者様にとって信頼関係が深いものであるため、異動や離職については慎重に対処するようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修会は理事長の意向から積極的に法人外での研修を受ける機会に恵まれている。また本年度より施設独自に勉強会を毎月1回開催している。また法人外の研修報告については、復命書を記入し、職員がいつでも観覧できるようにしている。	毎月行なっている勉強会は、個々の職員のスキルアップを目指すことを目標とし、サービスの質の向上に努めていきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、管理者のみ認知症地区協議会を通じた交流機会があるが、その機会で得たことが、全ての職員に十分に伝わっていない。	地域の福祉サービス関係団体との関わりの中で学んだ見聞を、勉強会、職員会議等で報告するなど、今後のサービスの質向上に役立てていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が気分転換を図れるよう休憩室を設けている。また法人内で、忘年会や栄養会などの環境がある。年間の行事として施設全体の懇親会の参加により他職員との交流の中で悩みを相談したり、されたりという関係を構築する事によりストレスの軽減に繋がっている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得、研修会への参加などの職員への支援を積極的に励行してくれるなど、職員のスキルアップへの支援に力を入れている。職員一人ひとりが興味を持つ研修会に参加することによりそこで得た知識や情報を他職員にも伝えていく研修体制を目指している。	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設にサービスについての問い合わせ、相談があった際には、生活状態の把握、本人、家族の内面にあるニーズを把握するよう努めている。その上で、必要に応じて関係機関へとつなぐようにしている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	各ユニットの介護支援専門員が相談等には対応するようにしている。相談に来る方に対し、これまでの経緯、要望等をゆっくりと聞きながら家族への協力体制を整えている。家族の思いも大切にしながらGHで出来る事、また対応し得る事を事前に説明し信頼関係の構築に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談を受けてから、本人やご家族の思いなどを確認、把握に努めた上で、信頼関係を構築する。その後、必要なサービスにつなげられるよう関係機関につなぐ(連絡調整)するようにしている。早急な対応が必要な場合はできる限り柔軟な対応を行い、安心して頂ける様努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前に、施設の雰囲気を見ていただくなど利用を希望される方々に配慮している。入居前に他の入居者様と顔合わせや会話などの機会をつくったり、入居後も職員が場面ごとに声かけなど他の方々と馴染めるよう支援している。		入居者様にとって環境の変化はとても大きなことなので、職員・家族が協力をしながら今後も利用される方を支援していきたい。またその際は利用される本人様が住まれている地域から切り離されないような支援を心掛けている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者さまのペースを大切に、本人さまの得意なことなどを職員と一緒に取り組むことも増えている。その際、スタッフは学びの姿勢を持ちながら接し、その時の本人様の思いを受け止めながら支援させていただいています。本人様の思いや苦しみ、不安、喜び等を知ることにも努め暮らしの中で分かち合い共に支える様、信頼関係の構築を目指している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子を広報誌や、面会にこられた際に細かく報告し、本人さまの日常にご家族さまも関わっていただけるよう努めている。入居者様の日常の様子や気づきの情報の共有を図り、ご家族も本人を支える大切な存在でその方を取り巻く重要な環境であるという事を理解して頂ける様努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	墓参りや散髪など外出する機会を設けることを勧めたり、行事などには家族を誘ったりしながら、関係構築に努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前に、散髪されていた美容院、かかりつけ医など地域との関係が途切れないように支援している。これまで住まっていた地域間との交流機会のひとつが散髪や、墓参りなど。その際の地域の方々との会話は、施設におけるものと様子が違うことも多く、施設に戻られてからのケアに役立ったりしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様が寄り添って、楽しく過ごす時間をつくっている。その際は、職員が調整役となり、入居者様同士のかかわりが円滑になるよう支援している。また、その際に気づいたことは経過記録等に書き留め、ケース会議等で職員間で情報の共有に努めている。個別性も大切にしつつ、皆さんで楽しく過ごす時間や気の合うお仲間と過ごせる場面作りをして心地よい居場所として感じて頂ける様支援している。また心身の状態や気分、感情の変化で回りの方と上手く関わりが持てない時には調整役となり支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在は利用サービス契約が終了された方についても、お会いした際に話をきいたりと必要に応じて、関係をもつようしている。グループホームから別施設へ移動された方に、施設在籍時の写真等を、印刷し職員のメッセージ付でお渡しするなどのお付き合いをさせていただいています。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	して下さいという関わりではなく、入居者さまの自己決定を尊重し、選択していただく場面を作ったりするなどしている。意志の表現が出来ないかたでも感情は脈々と生きているという理事長の教えをもとに、日々の関わりの中で、本人様の場合はという視点にたち職員間で話し合い、家族からも意見をきいている。意思表示の出来ない方、うまく表現できない方など、ご家族様から在宅時の生活歴をお聞きするなどして、利用者様のその人らしさを考え、ケアに活かしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前から、これまでの暮らし、サービス利用に至った経緯を含めお聞きするようにしている。しかしプライバシーにふれる情報でもあるので事前に、情報の把握の重要性を家族に説明し、生活歴・趣味・職歴など、本人の全体像をとらえるよう努めている。利用者様、ご家族様から了解をとった上で、関係する方から生活歴などをお聞きする場合もある。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	排泄記録・水分摂取量・食事分量・睡眠時間など記録をしています。1日の流れにそって、個々の能力を把握し、細かいことにおいてもミーティングや会議等を利用し、職員間で情報の共有を図るようにしている		心身状態の把握など、観察する能力を職員間で常にスキルアップしていけるようにしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	経過記録や、スタッフからの意見等をケース会議等で話し合い、介護計画に役立てる努力をしています。意志疎通の困難な方については、「この方ならどうだろうか」と、本人様本位に考え、必要に応じてご家族に意見を求めている。今後も介護計画の基本に立ち返り、入居者さま、ご家族さまの思いを取り入れ、またスタッフ・関係機関の意見やアイデアを取り入れ利用者本位の介護計画を共有したい。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し期間のみでなく、変化が生じた時点で迅速に対応できるよう職員全体で情報を共有し、本人さま、家族の意向を十分に汲み取った計画を作成する努力をしている。		入居者さまの思いを日常生活の中で気づいていけるような関わりを、今後とも増やすと同時に、ご家族とも定期的に話し合う体制を整えたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などを会話・行動・表情の変化・しぐさなどからの視点で個別台帳(経過記録)に記入している。また、食事・水分・排泄なども記録し、状態に変化がないか確認するひとつの手段ともなっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族様や入居者様のご要望に応じて、その都度、柔軟な体制をとれるように努めている。しかし、在宅で暮らされる方々からの通所機能、短期宿泊機能等については現段階において考えていない。外泊の支援、外出の支援、外泊時の情報提供等、その都度臨機応変に対応し個々の満足度を高める努力をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	個々によっては、民生委員との関わりを継続している。また、入居者様に安心して過ごしていただけるように消防署と協力し、防災訓練等を実施し、意見交換する機会をもっている。		最近導入したAED取り扱いを含めた緊急救急時の対応等を職員が全ての施設利用者、地域の方に対して還元していけるように、その都度、勉強会を開催したい。先日、心肺蘇生法・AED取り扱いについては消防署より指導を受けました。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて地域のサービス等を利用するための支援をすることもある。その他本人様の希望に応じて、訪問理容支援を利用している。		今後ともインフォーマルなサービス等もその都度取り入れていけるような取り組みを実施したい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難事例など、施設だけで解決が難しいケースにおいては、他事業所の介護支援専門員などに協力を求めるなどしているが、日常的な地域包括支援センターとの連携は不十分である。		今後、運営推進会議の中で、地域包括支援センターとも連携を強化しながら、情報交換等をしていき、関係構築につとめたい。また、成年後見制度は地域包括支援センター等、地域権利擁護事業等については社協等と連携をするようにしたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設入居によって、それまでの関係性が崩れるのは好ましく無いので、入居以前からのかかりつけ医を利用していただいております。個々によって受診支援の方法は違うが適切に行なわれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医等との連携は個々の入居者様によって異なっている。個々の利用者様ごとに主治医より、指導助言をいただいている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、入居者様の健康管理、状態変化に応じた支援を行なえる体制は整えているが、ユニット間の情報共有にいくつか問題を抱えており、その解決が急務である。		ユニット間の情報共有の体制を整え、常に看護職員が全入居者様を把握でき、介護職員に適切な助言・対応ができるようにしたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際には、本人様のこれまでの支援状況・方法等を情報提供し、慣れない場所においても大きなダメージが出ないように心掛けている。ご家族とも情報交換は密にし、退院に向けたアプローチをMSWと連携し実施している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、終末期ケアのあり方については、入居段階において説明をしており、グループホームや、その他関連施設のメリット、デメリットをさせていただいた上で、スタッフ・ご家族等と意見を共有はしている。しかし状況変化に応じた、その都度の説明等は不十分である。医師の考えは入っていないのが現状。		重度化した方、その他の方についても早期にそのような話し合いがもつようになります。その際は、サービス事業所として、どこまでが支援可能な範囲かを明確に説明し、個々の同意を得たい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現段階において終末期ケアについての準備は不十分。チームとして動いていないこともあり、職員の力量といった面でも不安がある。		終末期に入居者様が安心して、暮らしていただけるように、施設として、出来ること、出来ないことを見極め、かかりつけ医とチームとして支援ができるように検討していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	施設より転居される場合においては、支援状況・方法等を、本人、ご家族からの同意を得てから各関係者に情報提供を実施。新しい住まいでも必要なサービスが途切れない様情報を提供し、連携を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人の尊厳を大事にするため、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけを全職員がしないように、通常業務内で職員間で確認するようにしている。個人情報保護法の観点からも、知りえた情報等については、台帳を整備し、持ち出し不可、鍵付きの棚にしまっている。またパソコン内に保存してあるデータについては、個人情報保護の観点からインターネット環境には接続していない。事業所独自の理念にそって、利用者様の尊厳を守るように対応しております。ケア提供の場面においても、個々の心理面も考慮し、場面にあったケアを提供できるよう心掛けている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>して下さいというかわり方ではなく、入居者に合わせて、声かけをしながら本人が決めるように支援している。また意志表示の困難な方においても、声かけ時の表情など些細なことも注意深く伺いながら、本人本位の考えのもとで支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>施設側の都合で作られた流れの中に、個々のペースが出来ている。レクリエーション等の時間を確保するも、本人さまの希望かといえばそうでも無い。画一的な対応になってしまっている。</p>	<p>職員間で、工夫をしながら、入居者様のその日の気持ちに合わせてペースで支援できるようにしていきたい。勤務体制の問題もからんでくるが、出来る限りの、個別性のある支援を心掛けたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>個々のこれまでの生活歴をふまえ理容店などは、入居前からの馴染みの店に通っている。起床してから、髪を梳かしたり、鏡をみたりと、見守りや支援が必要な際は職員が手伝うようにしている。生活の中に自己決定して頂く様な支援に努めている。身だしなみについては本人様の気持ちに沿った支援を心掛けている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事内容は、職員と入居者様と一緒にのものを一緒にの時間に食べるようにしている。その際は、食卓を囲み、楽しい雰囲気づくりに職員はきを配るようにしている。能力的な低下から、介助を必要とする方が増えてきたこともあるが、極力、同じ時間に皆様と食事できるように心掛けている。</p>	<p>調理のできる方が、出来ない方に対して、「あの人は何もせんと」と怒られる場面が目立つようになった。職員が間に入るも、調整が難しいことが増えた。今後の検討課題である。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>医療的に制限がない場合においては、日常的に楽しめるように支援しております。煙草については、他入居者様に配慮し、施設の外で喫煙していただくように、本人様に説明し納得をいただく形をとっていい。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを把握するため、毎日記録をしている。その上でトイレ誘導をする事で、オムツの枚数を減らすことができた。また、夜間トイレまでの移動が困難な方については、夜間のみ居室にポータブルトイレをおくことで、安心した排泄・睡眠がとれるように配慮している。入居者様の排泄のパターン・習慣などを個々の仕草、表情等から把握できるように努めている。それらをユニット会議において職員間で話し合い、意見を共有している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む入居者様においては、対応の工夫、職員間の連携により支援する。現在も曜日・時間帯は施設側で決めている。職員間で問題意識はあるものの勤務帯ローテーションの関係でそのままになっているのが現状。しかし、常に個別支援の可能性を考えている。		本人の意向にあった入浴支援を今後とも考えていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入眠前は、居室の環境づくりをし、安眠できるよう個々に合わせて支援している。夜間も巡視をしながら、室温・湿度等にも気を配り、安眠できる環境づくりにも努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者様の出来る事を見つけ、日々の生活の中でしてもらっているが個々により差がある。家事行為などをしていただいた際は、感謝の言葉かけをするようにしている。レクリエーションの時間も確保しているが、画一的な対応になっている一面もある。入居者様に対して、何が楽しみごとになるのかをもう一度再考し、支援していきたい。個々の利用者様によっては、その方の持つ得意分野を日中のいずれかの時間で活かしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の買物等では、職員が付き添い支援している。墓参りなどで必要な花など、お店の方々とのふれ合いも以前からのお付き合いのある場所に行くように支援している。また、本人様の希望をききながら、買物に行く支援を提供している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	歩行困難な方においては、施設に備え付けの車イスを利用し、外出支援をしている。ドライブ等にも出掛けるが、定期的ではなく、不定期である。全体として外出支援は少なく、日常的な面では食材の買物程度であるがそれも、職員側の都合であり時間帯、行き先も固定化している。		外出支援のもつ、重要性・意味を職員間で再考しながら、日常的にどのように支援できるかを考えていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	命日の墓参りや、本人の思い出の場所など希望に沿って外出支援をしている。またご家族に対しても、一緒に外出する機会をもっといただけるようお願いしている。		お一人お一人の残存機能を見極め必要によってはご家族の協力を頂きながら、本人様の思いに添った外出支援に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じて、本人自ら電話などかけるよう、職員は支援をします。その際は会話内容のプライバシーに配慮するよう努めている。個々の能力に応じて、家族に手紙をだし、文章で交流を図っており、職員は必要に応じ、代筆・想いの代弁機能を果たす。個々の入居者様ごとに年賀状をご家族様宛てに郵送。代筆を頼まれた際には、職員と一緒に書きし、ご家族様への想いをきちんとお伝えできるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	個室にてゆっくりと過ごしていただくこともできるが、施設には家族室を設けてあり、訪問の際に利用していただくことも可能。また、訪問のみならず、宿泊等についても気兼ねなくしていただけるよう準備はしている。日常の中で、ご家族・馴染みの方からの訪問の場面においては、居室において、ゆっくりと過ごして頂けるように配慮。その際は、居室に応じて、椅子・テーブル、お茶などを準備している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は現在まで無いが拘束について、職員の理解が曖昧で共通した認識が不足していたこともあり、レジュメを配布し制度の理解を求めた。やむを得ず危険・転倒防止の為、拘束させて頂く場合においてはその都度、ご家族を交えて十分な話し合い、説明する機会を持ち説明書に署名・捺印を頂く体制をとっている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者様が、外に出て行く様子を察知したら、さりげなく声を一緒にそのままついていく。その際は残る職員に伝えるなど連携をとっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	時間ごとに、人員確認を職員が実施している。記録作業なども、安全に過ごしているか見守りながら入居者様と同じ空間で実施している。夜間については巡視の時間を設け、様子を確認するようにしている。日中は勿論の事、1人体制の夜間時は必要に応じ隣ユニットの夜勤者と協力し安全面に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者様の安全に配慮するかたちで、清掃時に使用する薬品などは、目立たない場所に保管し、入居者様が使用する際は、職員の見守りのもと使用している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故、ヒヤリハットに関する報告は、様式があり、その都度、記録するようにしている。また、事故が発生した際には、可能な限り情報がそろった段階で、様子と対応を家族へ報告している。		ヒヤリハットについては、様式を含め、収集の仕方など再検討をし、事故防止に役立ていけるよう取り組みたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	一部の職員に頼っている現状がある。ひとり一人の職員のスキルアップはもちろんのこと、応急手当の勉強会を消防署等に協力を頼みながら事業所として実施したい。今後、消防署からダミー人形や訓練用AEDをお借りして、心肺蘇生法を中心とした勉強会の開催を計画している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年に数回、消防署の協力のもと実施している。その際は、地域の方々から近隣消防隊として協力していただいている。また、ユニット間に、「防火管理者取得講習会」を受講済みの職員を1人ずつ配置している。また台風時には、食料、水を事前に確保し、施設内外で異状がないか点検している。夜間の場合は、必要に応じて夜勤者以外にも職員が泊り込みで対応をとるなどしている。		訓練については火災訓練が主である。入居者様が安心して暮らしていけるに水害、地震などその他考えられる災害対策を考えていきたい。夜間の火災時については、消防署指導のもとマニュアルを整備している。また今年度中にスプリンクラーを設置予定である。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族に対して認知症の周辺症状を抑圧するのではなく、穏やかな暮らしの中での自由さの説明をしている。個々の「尊厳」をご理解いただき、安心していただけるよう努力をしています。ご家族が安全を優先される余り抑制を希望される場合においても、福祉施設としての在り方、個々の尊厳などを再説明している。その上で安心して頂ける様に理解を求めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者様の顔色、表情の変化などに注視し、変化を感じた際はバイタルをチェックしている。また看護職が不在の場合でも、必要に応じ助言をもらい、その後の対応など指示がある。その後は、職員間で連携し、引継ぎの際にしっかりと情報を共有するように努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は、事務所にて一元的に管理している。食事の配膳の際にセッティングし、見守り、必要に応じて介助している。服薬の用法、目的などは個別台帳に早見表を綴ってある。また、医療機関を受診した場合は、所定の記録用紙に留意事項を記録するようにしている。		前項でもふれたとおり、ユニット間の情報共有にいくつか問題を抱えており、その解決が急務である。ユニット間の情報共有の体制を整え、常に看護職員が全入居者様を把握でき、介護職員に適切な助言・対応ができるようにしたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック 水分摂取の把握や繊維を含む食物を食事に取り入れるようにしている。野菜嫌いの方などへも食べていただけるような工夫をしている。一人ひとりの食事形態の工夫、繊維質の多い食材、乳製品の取り入れ、水分補給等自然排便できる様に取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔内の清拭を実施している。拒否される方においても、声かけの対応を変えてみたり、職員間のチームワーク、または入居者間の対応により実現できるよう努めている。毎食後の口腔ケアの徹底、本人様の能力に応じた介助をしている。誤嚥性肺炎の予防においても大切なのでお一人、お一人の力に応じた口腔ケアの支援を行っている。また自歯の方は虫歯・歯周病予防のため、ブラッシングは丁寧にゆっくりと介助している。歯磨剤はフッ素配合物を使用。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス等については、隣接する特養栄養士より助言をもらっている。水分量も、必要な量を確保している。食事水分摂取量、排泄チェックなどは毎日記録を実施。食事形態も本人の状態に合わせて、行なっている。水分補給については、施設側が提供する時間ではお飲みにならない事例が増え、提供回数を増やし、またお茶だけではなく、果汁飲料、牛乳、紅茶などバリエーションを増やすことにより、全入居者間で摂取量を増やすことができた。日中に最低1500ccを目指している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを整備した。今後は、おこりうる感染症について正しい理解をマニュアルを参考にしながら、予防・対策をしていきたい。インフルエンザについては、家族に同意いただき、予防接種を実施している。また施設玄関には、消毒用具が置いてある。前回の市実地指導から、指摘を受けたトイレの共有タオルを廃止し、使い捨てペーパーを設置している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日買物を実施し、新鮮な食材を購入するようにしている。買いためはなるべくしないようにしている。また、まな板、布巾、シンク類などは、定期的に漂白している。衛生管理マニュアルを作成中である。マニュアルにそって、調理器具の消毒など職員間で実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には、松を植えていたが、日照不足のため撤去された。このため、このスペースをどう有効活用しようか検討中である。玄関内部は、季節感をだすため、手作りの折り紙作品などを飾っている。玄関先の花植えのスペースは、比較的、日照が少なくても咲く花などを植えている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにソファをおいたり畳の場所があり、日常的に利用している。日光の調整はカーテンで行なっている。テレビや音楽などの音量には注意している。今後の課題としては、いかに生活感・季節感をだすかだと思います。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人で過ごしたり、気のあった方同士で談笑できるように、ソファ、畳、椅子とリビングには大まかにわけて3つのスペースある。廊下等にそういった場所を考えてみたが、スペース的に非常口とかさなり断念している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具等、搬入をお願いしているものの、個々によって差がある。日常の生活の場面などの写真を貼り、その時々の方々の回想に繋がっている。季節を感じて頂ける様な雰囲気作りをしていきたい。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングは、定期的に換気を行なうようにしている。常温±5度で設定が基本にし、入居者様の状況に応じて調節している。居室やトイレなどは換気扇をつけている。また、トイレや失禁等があった際は、入居者様に配慮しながら消臭剤を使用している。ご家族様から協力をいただき、加湿器を購入していただき、冬場乾燥時期に使用。電気コードからの感電、取り扱いに支障のある方については、おき方に工夫を実施している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態に合わせて、浴室・トイレの手摺を増設するなどして居住環境を整備した。住環境を整備することにより安全の確保と残存機能を活かした自立、自信へ繋がる環境を創造している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者様を取り巻く環境が、混乱や行動の失敗、ひいては自身の喪失をまねいたりすることになりかねないので、個々の不安材料を見極め検討し、改善していけるよう職員で取り組んでいる。入居者様一人ひとりの出来る事に着目し力を発揮し、力を取り戻して頂ける様支援している。新たに混乱や失敗が生じた場合はその原因を職員で探り入居者様の不安を取り除きどう関われば、自信回復に繋げていけるか検討している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑に野菜、中庭にけらまつつじ、松などを植えている。野菜の収穫などは、個々の残存能力を見極めた上で職員と一緒に実施している。中庭、畑ともに水道など設備しており、入居者様が楽しく活動できるよう考えている。		中庭の活用を工夫し、活動に活かせる環境整備を行っていきたい。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)